

オーストラリア ブドウの収穫が始まり高品質の豊作を期待

FreshPlaza 2023年11月22日

オーストラリアのブドウの収穫は10月中旬にクイーンズランド州中部で始まり、これらのブドウは主に国内市場向けである。輸出用ブドウの収穫は1月に始まる。

サンレイシアは国内生産の75%を占める主要産地であるが、輸出では99%を占めている。

オーストラリア生食用ブドウ協会のジェフ・スコットCEOは、「今シーズンは今のところ天候に恵まれており、ブドウの栽培には最適である。今年は非常に品質の高い果実の豊作が期待できる。オーストラリア産のブドウを有名にしたあの高い評価を取り戻せるであろう」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

「冬は夜が寒かったが昼間は快晴で、春は晴れて暖かく、夜は寒く、雨は少なかったが降った時には適切なタイミングであった」同氏は、一部の品種では収量が昨年よりわずかに減少するかもしれないが、これは園地の輸出向けブドウの品質を向上させるであろうと述べた。「天候が品質に影響した昨年でさえ輸出市場の需要は旺盛であったが、今年は今のところ需要が高いようで、多くの国から引き合いがある。」

オーストラリアにとって最大の輸出先は中国と香港で、インドネシア、ベトナム、タイ、フィリピンがそれに続く。オーストラリアは、日本への輸入アクセスの品種の追加を求めている。「日本は現在、品種の追加について国内関係者と協議を進めており、近い将来アクセスが許可されることが期待される。米国は、既存の輸入条件を修正する手続きを進めており、我々が米国にブドウを出荷できるようになることを期待している。」

執筆者: ニコラ・マクレガー

オーストラリア マンゴーは遅い開花で収穫量が回復

FreshFruitProtal 2023年11月22日

オーストラリアの冬の季節外れの天候が開花に影響しており、クイーンズランド州に本拠を置くディーンファームズ社では、予期せぬ遅咲きがマンゴーの出荷シーズンを救う助けになる可能性がある、グッドフルーツ&ベジタブル誌は伝えている。

マネージャーのダニエル・ル・フェーヴル氏は、これからの出荷シーズンの見通しは「かなり悪い」として、同社は極端に低い収量に備えていると述べつつ、「2年前には前例のない低い収量で、今年も同じになりそうだったが、開花が非常に遅く9月になったため、通常の収量に近づいている」と付け加えた。

同氏は、予想外の遅咲きにより、収穫の大部分が例年よりかなり遅くなることになりそうだと語る。それでも同社は、一部の早い果実の出荷を期待している。

同社は傷ついた果実の市場を作るために1999年に「マンゴー募金」を設立しており、同社のビジネス戦略において、持続可能性と食品廃棄物は重要な位置を占めている。

この募金活動は、学校や団体をつなぎ、ケンジントンプライド種のマンゴーを優待価格で直接販売するものである。

ル・フェーヴル氏は、「それは、傷があっても味の良い果実の市場が欲しかったからである...スーパーマーケットは傷のない果実しか受け付けない」と指摘する。

これにより、同社はスーパーマーケットと募金の顧客のシェアが半々に近づき、損失を削減するのに役立つ。